

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野(6/10)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
かがわ医療福祉総合特区(香川県)	3.8	4.4 進捗度 ・電子カルテ機能統合型テレビ会議システム「ドクターコム」等による遠隔医療の推進 105% ・へき地薬局研修参加者数 100% ・複合型サービス施設 80% ・島しょ部における地域包括ケア病床の確保 150%	3.4 規制の特例等 ・地域包括ケア入院管理料1の施設基準の緩和等 地域独自の取組 ・複合型福祉サービス充実事業	3.6	<p>・全体として個々の取組について着実な進捗が伺える。地域包括ケア病床の開設や遠隔診療、へき地薬局研修など実績を積み重ねている点は一定程度評価できる。</p> <p>・規模は大きくないが、人口減少社会の課題である遠隔僻地における医療システムのモデル構築の取組は極めて重要である。国の医療政策にも知見が活用されており、有意義な事業である。</p> <p>・「ドクターコム」等の対象となる在宅患者の総数に対して、実績の患者数の割合を示すと、実態が明らかになり、成果の判断が容易になると期待される。</p> <p>・「へき地薬局」の利用頻度や利便性についての詳細が求められる。</p> <p>・個々の支援策が、どのような経路で総合的な目標である医師等の地域的な偏在の解消に結びつくのかについての戦略性を明らかにしておく必要がある。</p>